

# KIBO NO NIJI きぼうの虹

**発行所**  
北海道大学生協同組合  
札幌市北区北8条西7丁目  
教職員委員会編集  
電話 011-746-6218



きぼうの虹フォトコンテスト特選作品  
「雨後のイチョウ並木」  
胡安琪さん (生命科学学院)

## 主な記事紹介

- 三画 台湾通信 第9回
- 四画 五画 第7回フォトコンテスト「北大百景2019」審査結果発表!!
- 八画 北大キャンパスの遺跡へ行こう 第2回

北海道大学理蔵文  
化財調査センター 高倉 純

北大台湾同窓会会員 菅 大志  
北大台湾留學生會會長

この度、2019年5月第1回理事会において承認いただき、2019年5月23日付けで専務理事に就任いたしました、小助川誠と申します。

まずは、自己紹介させていただきます。私は1983年3月北大生協に入協し、今年で勤続36年目になります。入協後2000年までは、購買外売店、スポーツコーナー、工学部店など購買部を中心に配属されました。その後、教育大学函館生協(当時)、北海道事業連合(当時)、釧路公立大学生協(設立)に転向し、2016年4月北大生協に帰任、専務補佐に就任しました。入協後30歳頃までは店舗で多くの組合員さんに接することができ、とても楽しく仕事をさせていただきました。また仕事を通じて、学生サークル、学部の教職員さんと軟式野球、バスケット、雪中ラグビーなどのスポーツ交流を沢山行っていた頃が懐かしく思い出されます。特に教職員さんの全北大野球部さんとは何度も試合をさせていただきました。強かった!!その当時の方は今もOBチームで活動を継続されていることを聞き羨ましく思いますが北大生協野球部は存在していませんが試合はなく年末の納会だけで、過去の栄光を語り楽しんでいきます。想い出話が多くなりました

が、今後も学生、教職員の皆さんとは積極的な交流を大切にしたいと考えております。

さて、北大生協の2018年度決算は、赤字で終了しました。昨年9月北海道胆振東部地震発生、耐震工事によるポプラレストラン長期休業による営業損失、コンビニオープンによる購買利用への

影響、老朽化による設備の修繕費用、新規導入費用増、人件費高騰など様々な要因に対策を打ち切れなかったことが単年度赤字に繋がったと考えます。将来の学生、教職員に過重な負担をかけるために、2019年度は黒字決算を迎えられるようにする事がとても大切です。引き続き「組合

### 就任のご挨拶

北海道大学生協同組合  
専務理事  
**小助川 誠**



### Opinion!

員の声」を中心に、組合員の要望等を把握して、できるだけ早く改善に結び付けて、品揃え、食堂メニュー、接遇、広報、衛生管理で他店に負けないよう、大学内の生活に満足していただける、魅力のある北大生協になれるよう努力します。また、商品仕入原価の改善・人件費・物件費等のコストを作業改善等で効率化し、さらに老朽化している福利厚生施設の5年後、10年後を見通した長期展望のもと、20年、30年先まで生協運営が持続できる取組みに努めます。

来年は、2016年度から5年間の中期目標を掲げた「北大生協ビジョンとアクションプラン」の取組みの最終年度になります。5年間の活動総括、新たな中期的な目標であるビジョン、それを実現する行動・実践計画であるアクションプランを2020年度総代会で報告いたします。

これからも、大学構成員の皆様の声や期待、ご利用に応え、身近で役に立つ優しい生協づくり、大学の福利厚生の一部を安心して任せいただける生協づくりを目指し、そのために学生生活の変化や組合員の変化を捉え、大学様と協力しながら改善につなげていきたいと考えております。皆様のご協力ご厚情を賜りますようお願いいたします。



## 環境問題を身近にとらえるために

# 全国環境セミナー (in 三重大学 6月22～23日)

## 参加報告

北大生協では、毎年6月に全国大学生生活協同組合連合会が主催する「全国環境セミナー」に複数名の学生を派遣して、全国の大学の環境活動の取組みの学習や交流をして、その成果を組合員の皆様にフィードバックしています。

北海道大学 理学部4年

伊藤 凌

印象に残った全体講演

今年の開催場所が「環境先進大学」を目指す三重大学ということもあり、三重大学の朴恵淑(パク・ケイシユク)先生の講演から始まりました。四日市公害から学ぶ「四日市学」と、持続可能な開発のための教育(ESD)や持続可能な開発目標(SDGs)のお話を聞きました。四日市公害をただ過去の過ちとして隠そうとするのではなく、悪い状態からいかにして元に戻したのかを知り、これからどう活かしていくかを考えることが大事というお話でした。また、SDGsについても、最近よく耳にする単語ではありませんが、あまり詳しくは知らなかったのですが、その詳細を知る良い機会になりました。その後のプログラムでは、自分の身近なところから環境について考えていきました。データから環境問題について考え、個人の生活を見つめなおしたり、各団体の環境活動を行う意義について考えたりしました。

他大学の活動事例

二日目には、分科会形式で他大学の環境に関する発表をふたつ聞きました。

ひとつめには岩手大学生協のレジ袋有料化の取り組みについて聞きました。北海道大学でも、レジ袋の有料化には6月から始めたばかりで参考になる話を聞ければと思います。他大学でもレジ袋の有料化について考えているようで活発な意見交換が行われました。

ふたつめには富山大学生協の油の処理に関する取り組みについて聞きました。油の処理にはしっかりと取り組まないと、すぐに水質汚濁につながる可能性があります。生協と大学で協力して取り組んで改善しました。大学は大学内の水道用流し台(シンク)に即席麺の残り汁を直接捨てないことを周知し、生協は食堂の皿は油をふき取ってから洗うことでグリーストラップ(厨房からの油脂を含んだ排水をせき止める業務用の器または槽)に頼りすぎないようにしました。グリーストラップにも物理的限界があり、それを越えたことで問題になってしまったのではないかとということでした。北大生協でも問題になりかねない事柄だと思いついていました。環境活動の取り組みをポスターにして報告している団体もありました。メインのプログラムでは取り上げられないもので、セミナーの休憩時間などで少し見ました。

環境セミナーに参加して

セミナーに参加した学生は、環境問題が注目されるようになってから生まれてきた世代です。幼い頃からずっと耳にしている話題ではありますが、身近な生活で実感として伴っていないのも事実です。また、四日市公害の最初の裁判からすでに50年以上経過しています。今を生きたる多くの人のため、歴史上の出来事という認識ではないでしょうか。そういった事情もある中で、今回のセミナーで環境問題を実感する機会があったのはとても有意義なことでした。

### いじわるじいさん

1959年から84年まで、在日朝鮮人達の帰国事業が行われた。この事業で夫と共に朝鮮民主主義人民共和国へ渡った日本人妻達がいる。「フォト・ドキュメント」朝鮮に渡った「日本人妻」(林典子著 岩波新書)には、彼女達の人生が綴られている▼60年第16次帰国船の中に北大水産学部で学んだ若い夫婦がいた。教授や学友の祝福を受け函館で結婚、2カ月後に乗船した。渡航後夫は海辺の町の水産研究所で研究生活に没頭、本も出版。後輩だった妻は夫の研究を資料探などで支えた▼妻は、朝鮮の人々に助けられながら4人の子を育て、言葉も習慣も違う地に根を下ろして生きてきた。その彼女が、「この道はいつかきた道」と歌う時、声が震え涙がにじむ。日本への思いがこぼれ出てくるような場面だ▼日本人妻が刻んできたそれぞれの人生が、胸に沁み入って来る。私は彼女達が住む国の何を見ていたのだろう。拉致問題とミサイルの怖い国のイメージだけで、朝鮮を見ていたのではなかったか▼日本への里帰りの事業は2000年が最後になった。もう一度故郷の土を踏みたい、その願いが叶えられることを切に願っている。(今日子)



# 品台湾通信

## 「北大珈琲」と「北大紅茶」

北大台湾同窓会会員・北大台湾演習林百年祭発起人 菅 大志



### 「KANANO」ならぬ「KANO」

昨夏、甲子園では金足農業が決勝まで勝ち進み準優勝する「金農旋風」が巻き起こりました。実は、88年前にも準優勝した農業高校があり、その胸には「KANANO」ならぬ「KANO」の文字が躍っていました。「KANO」とは台湾代表、嘉義農林学校（現・嘉義大学）だったので。

この嘉義農林は北大との縁が強く、初代校長をはじめ多くの先輩達が教員となっており、その関係で珈琲や紅茶も栽培されていました。特筆すべきはこの嘉農野球部の創部には北大の先輩達が大きく関わっており、柳川鑑蔵（23期生1906年卒農学乙科（畜産学）、樋口孝（林学科1914年卒）、安藤信成（農芸化学科1920年卒）なくしてこの嘉農野球部は生まれることはなかったでしょう。

この嘉農野球部は「KANO 1931海の向こうの甲子園」として2014年に台湾で映画化され、2015年に日本でも公開され話題になりました。この映画は、野球を通して日本統治時代の台湾を描いた作品ですので、北大の先輩達が活躍した台湾を堪能することができるのでお勧めします。

### 北大の先輩達が嘉農野球部を創部

残念なことに、この映画では樋口孝の名前が間違っており、安藤信成は直接登場しませんが、「一九二八年嘉義農林新成立野球隊」という写真の中にお二人はいました。中央の無帽が樋口孝校長、右隣が安藤信成監督です。また安藤の右上が呉明捷（漢人）、左上が上松耕一（原住民）ですから、日本人・漢人・原住民の混成チームは創部時からの伝統であったことがわかります。

この嘉義農林学校は台湾初の農林業の実業学校として百年前の1919年4月、初代校長柳川鑑蔵を迎え開校しました。そして、1926年4月、柳川校長から引き継いだ二代校長樋口孝が甲子園出場の目標をかかげ、1928年4月安藤信成教諭を初代監督として野球部を創部したのです。

### 北大の先輩達と嘉農野球部が迎えた近藤兵太郎

嘉農野球部は、初戦7月の対台中商業戦は0-13と大敗し、第2戦10月の対南鐵戦では2-5で善戦したものの勝てませんでした。その後、部員全員でどうすれば甲子園に行けるか真剣に話し合い、「嘉義商工学校助教諭の近藤兵太郎に指導をお願いしたい」と安藤監督に報告しました。そして樋口校長が近藤兵太郎に依頼し、1929年に囑託の監督として迎え入れたのです。写真中央の北大コンピ樋口校長と安藤監督の甲子園への大志がこのように部員全員に伝わり、甲子園出場という闘志を芽生えさせ、この闘志が名将近藤監督を誕生させたのです。

### 廣井勇とその弟子八田與一と十川嘉太郎

さらに、この映画では農業灌漑用の烏山頭ダムを建設した八田與一が登場します。八田は北大ではなく東大出身ですが、その指導教授が廣井勇工学博士（二期生1881年卒・札幌農学校工学科教授・東京帝大工学部教授）であったことはあまり知られていません。また十川嘉太郎（札幌農学校工学科2期生1892年卒）も廣井博士の弟子の一人で、基隆港（この映画の冒頭シーン）や明治橋（台湾神社参道の橋）の建設工事を手がけています。このように日本統治時代の台湾では農林業分野だけでなく土木工学分野にも北大の先輩達が関わっていたのです。



一九二八年嘉義農林新成立野球隊（嘉義大学校史室提供）



# 大百景2019」審査結果発表!!

「きぼうの虹」フォトコンテストも今年で7回目となりました。テーマは「北大百景2019」。6月3日から30日までの約1ヶ月の応募期間中は、北海道らしい初夏の爽やかなお天気も多く、最終的に54点の作品が寄せられました。その中から各審査員が悩みに悩み、特選1点、各委員会賞5点を厳選いたしました。応募していただいた皆さん、本当にありがとうございました。秋には全応募作品の展示会を予定しています。お楽しみに。

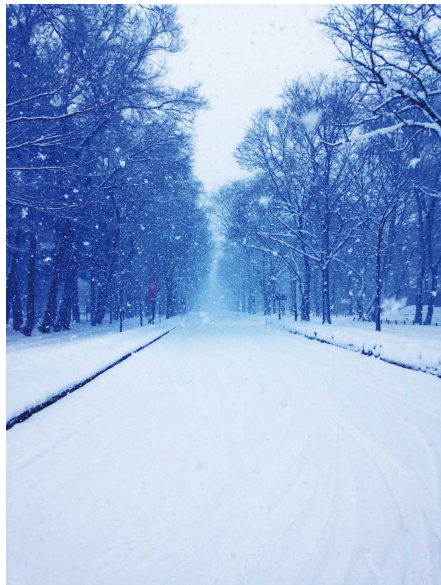
## 特選

### 「雨後のイチョウ並木」 胡安琪 (生命科学院)

イチョウ並木の黄葉は水で反射されて美しさが倍増しました!

#### ●審査員コメント

今年で第7回を迎える北大生協のフォトコンテストですが、年々応募作品の質の高さに興味しております。今回の特選の写真はイチョウ並木と秋雨の後の水たまりに映えるイチョウ並木を撮影した一枚です。撮影者の「美しさが倍増している」というコメントに共感します。構図がとても素晴らしく、イチョウ並木の奥に引き込まれます。北大四季の秋を象徴する作品です。



## 学生委員会賞

### 「雪の朝」

奥村 剛士

冬の朝は寒く通学が憂鬱でしたが、昨夜からの雪がメインストリートに降り積もっていて綺麗だったので撮りました。

#### ●審査員コメント

この写真を見た瞬間に思わず写真の中の神秘的な空間に引き込まれそうな一枚でした。北大の冬を象徴するような雪の降り積もったメインストリートの朝の景色は穏やかで、さらにしんと雪の降っている様子は見ているだけで心が安らぐような素敵な写真だと思いました。

## 院生委員会賞

### 「放牧」

池田 史 (理学部物理学科4年)

ポプラ並木の傍にあるカーブミラーから、北方圏の農場を写しました。

#### ●審査員コメント

構図の面白さだけでなく、北大農場での都市と農風景の融和が伝わる点が魅力的に感じました。

鏡越しに見ることで緑や青空が澄んで見えるという点も印象に残りました。木々が生い茂る背景と広々とした農場の対比も面白いと思います。



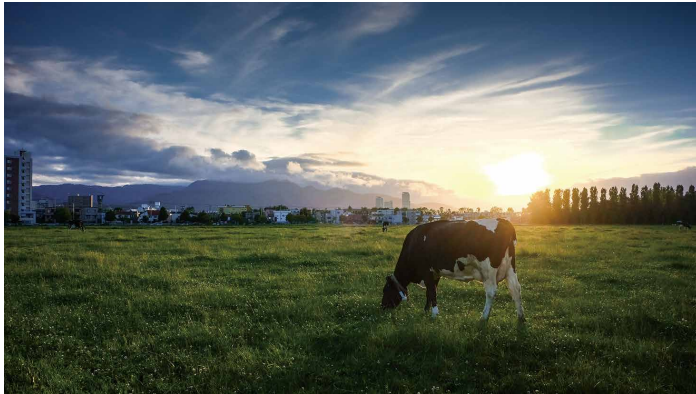


# 第7回フォトコンテスト「北

審査員：生協学生委員会、院生委員会、教職員委員会、北大教職員写真同好会、生協理事会室から各1名

\*教職員写真同好会の皆さんには、きぼうの虹の表紙写真をはじめ、長い間お世話になっております。この場を借りてお礼申し上げます。

特選および各賞入選者の皆さんには、生協電子マネーチャージを贈呈いたします。



## 教職員写真同好会賞

### 「農場twilight」

藤原 正浩

北大に入ってから修士になった今まで、この場所が大好きで、何度も通ってようやくこの写真が撮れました。

#### ●審査員コメント

140年以上の歴史を持つ北大農場。クラーク博士が連れてきたといわれるホルスタインは今も変わらず放牧によって飼育されている。そんなストーリーが写真に込められた作品です。構図、色合い、雲の形など、どの要素もすばらしく、さらに露出アンダーな点がよりメッセージ性を強くしています。良い写真を撮るには、時間や季節を変え、何度も同じ場所へ通わなくていけないことを改めて考えさせられました。



## 教職員委員会賞

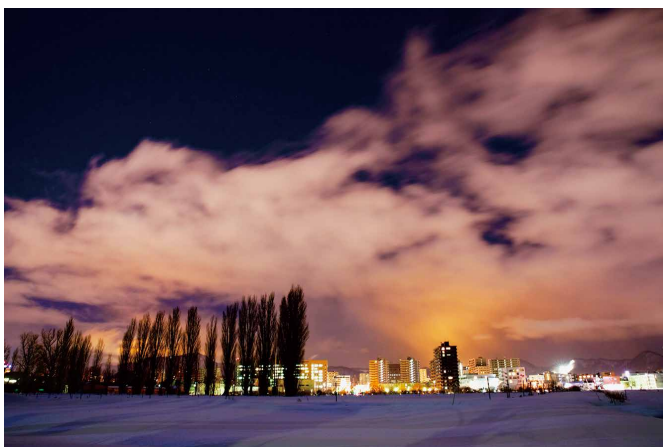
### 「鶯のアート」

小林 純子 (大学院医学研究院)

2018年10月 医学部図書館にて

#### ●審査員コメント

「自然は芸術を模倣する」とは、自然と芸術との関係を逆説的に表現したオスカー・ワイルドの言葉とこのことです。この写真の鶯たち（もしかすると一株なのかもしれませんが）には、お手本の絵を見てそのとおり模倣したかのような「意志」さえ感じさせます。季節の中でほんの一瞬しか存在しないアートを、写真として残してくれた作者に感謝いたします。



## 理事会室賞

### 「平静な夜」

李遠霖 (情報科学院)

空がオレンジ色に染められ、雲が流れるように見えます。賑やかな街から離れ、北大農場の夜は平静です。

#### ●審査員コメント

冬の夕方、農場の向こう側に広がる住宅街の灯りのコントラストが美しいですね。ポプラ並木の陰影がアクセントになっていて素敵な構図でした。

# 心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

## 渡邊 誠



自分にとって、何か大変な出来事があった時、その出来事にどう向き合い、どう折り合いをつけてゆかかという当面の問題は、切実なものだと思えます。しかし、私たちは、その出来事を超えて、その後を生きてゆかなくてはなりません。多くの場合、何十年にも渡って、心理学的支援の仕事は、多くの場合、当面の切実な問題に折り合いをつけるのを支えることです。そして通常、ご本人が、もう大丈夫、と判断した時点で、支援は終わります。でも、その後、その人がどのように生き、どのような出来事を経験したのかを知る機会には、あまりありません。その後の消息を知ることが限られた機会です。短期の集中的で強力なカウンセリングの後の、長い期間に渡る事後面接も、本当に多くを教えてください。

大切な人を喪った後の、その後の生を、人はどのように生きるのか。これは分かるようで分からないことのように思います。とくにそれが悲壮な別れであった場合です。自分自身がその立場になれば、痛切に体験せざるを得ないでしょうけれど、しかし、身近にそういう経験をした人がいる場合でも、その心情はなかなか語られないことが多いように思います。

近しい人を看取った経験、あるいは身近な人を事故、災害、犯罪等によって亡くした体験を綴った手記は、かなり多く出ているように思います。しかし、その出来事の後、十年、二十年、三十年の推移を記したものは、あまり多くないと感じます。刊行される場合も、非売品や小さな出版社からということが多いようで、その存在を知る機会自体がなかなか無く、出版後かなりの時間を経て気づいたということも、私にはよくあります。それらはどの一冊も、他に代えられない重みを持ちます。読んだ後、出版という形で共有することを許してもらえたことを、感謝するのが常です。



そんな本の中の一冊です。一九七四年三月にパリ近郊で起こった、トルコ航空DC-10型機墜落事故の日本人遺族会の記録です。事故から三十三年を経て、二〇〇七年に非売品として出版されました。事故機は、パリのオルリー空港を離陸してほどなく、後部貨物室ドアが脱落して操縦系統すべてを破壊され、エルムノンビルの森に墜落しました。墜落時のあまりの衝撃に、大量の燃料が一瞬に爆発し尽くして、火災が生じなかつたほどでした。よく晴れた日の早春の森は小鳥の囀りが消え、音一つなく静まり返っていたと、証言は伝えます。乗員乗客三四六名全員死亡。当時、世界最大の航空機事故でした。犠牲者のうち四八名が日本人です。日本人遺族による米国での裁判は、苛烈を極めます。血も涙もないとはこのことかと思ふ、激烈なやり取りが続きます。納得のいく和解を勝ち取った後、遺族たちは航空機製造会社に、犠牲者への謝罪を求めます。墜落現場に建てられた慰霊碑の前で、ついに誠意のある謝罪が行われるのを見た遺族は、亡き人に、許さう、許せないけどゆるそう、と語りかけるのです。そして、現実の世界でなすうることすべてが終わった後訪れるのは、圧倒的な寂寥感なのでした。私はそう感じました。事故を直接知る人がすべて世を去ったのち、日本から植樹された桜の花だけが、犠牲者の名前の刻まれた慰霊碑を、いつまでもいつまでも見つけ続けるといふ光景が、めまいのような感覚をともなうて脳裏に浮かびます。人はこの寂寥に、どうしたら耐えられるのでしょうか。

国立国会図書館の閲覧室で、誰も読んだ痕跡の無い頁を繰りながら、私はひとり、ただただ圧倒されるような思いをかみしめていました。

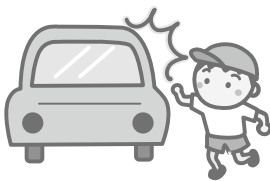
今回は自賠責保険（正式名称は「自動車損害賠償責任保険」、以下、「自賠責」）の根拠法である自動車損害賠償法（以下、「自賠法」）の話です。

自賠法は1955年に制定されました。戦後間もない時期、自動車急速に普及するに伴い交通事故も急増（交通戦争）という言葉に記憶あります。当時の交通事故の賠償は、民法により「過失責任原則」が適用され、過失責任は被害者が証明しなくてはならず、また、当時の任意自動車保険加入率10%に満たない時代、加害者の賠償資力がないうえ被害者は泣き寝入りするしかありませんでした。

このような事態を打開するため制定された自賠法のポイントには、①加害者が過失がなかったことを立証しなければならぬ実質的な無過失責任を負わせること、②強制の自賠責を創設して加害者の賠償責任履行能力を解決すること、③ひき逃げ事故で加害者が不明な場合等自賠責から保証が得られない場合に備えて政府保証事業を創設したことです。

この自賠法に基づいた自賠責は、すべての自動車の保有者に対し、加入が義務付けられた保険です。未加入の場合、罰金や懲役などの罰則規定があります。一人当たりの補償の限度額は、死亡による損害は3,000万円、後遺障害による損害は後遺障害の程度により75万円〜4,000万円です。ただ、人身事故の被害者救済が目的のため、対物賠償、自分のけが、車両の損害の備えがありませんし、実際の事故補償は自賠責の補償を超えることも少なくありません。

補償は一律、加入は義務、車検や自動車購入時に自動的に加入、保険料も事務手数料の中に入っているの、自賠責はあまり考えることはありませんが、加入者証と「加入のしおり」が車検証といっしょに入っているとあります。あらためて確かめてみてはいかがでしょうか。



# ほけんのお話

Vol. 14



北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

# 北大生協組織委員会報告

## 学生委員会

■機関紙Letter  
「自由研究号」発行  
学生委員会では7月の第3週から機関紙Letter「自由研究号」を発行しています。今年度は3回発行する予定のLetterですが今回は夏に発行するという事で、花火大会を特集する記事や夏バテ対策に関する記事を掲載しています。生協店舗に配架されていますのでぜひお手にとってご覧になってください！

### ■第1回総代会議

#### 「総代のつどい」開催

7月8日に中央食堂の2階で総代のつどいを行いました。今回はコップパンをテーマに、総代と生協職員と学生委員でコップパンの普段の使い方などを活発に議論することができました。次回の総代のつどいは10月以降の予定です。学生の総代の方はぜひご参加ください。

### ■学生委員会公式ID・Twitter

<http://hokudaiqi.web.fc2.com/>

@HU\_COOP\_GL\_CS

学生委員会の活動や学生委員の日の様子など、学生委員会のことについて詳しく知りたい方は、公式HP・Twitterをぜひご覧ください。

### ■学生委員会連絡先

[gakusei@coop.hokudai.ac.jp](mailto:gakusei@coop.hokudai.ac.jp)

学生委員会に意見・質問のある方は、こちらのメールアドレスにご連絡ください。

これからも学生委員会をよろしくお願ひします!!

## 院生委員会

■「院生交流ジンパ2019」は中止になりました。

例年30名程度ご参加いただいた院生交流ジンパですが、悪天候の予報や参加申込が少なかつたため中止になりました。今後活動していく上で、院生組合員のニーズは何かを今まで以上に考えていきたいと思えます。今後は例年行っていた活動を見直し、ひとまず院生組合員の実態把握につとめたいと思います。

### ■院生委員会連絡先

<http://www.hokudai.seikyone.jp/~insei/>

Email: [hokudai\\_insei@coop.hokudai.ac.jp](mailto:hokudai_insei@coop.hokudai.ac.jp)

## 留学生委員会

### ■留学生委員会再始動

留学生パンフレット作成後2019年3月から活動休止しておりました留学生委員会ですが、6月24日の委員会部会で継続して活動をしてくれる委員の確認と、委員会活動として目指していく方向性を確認しあつて再出発をいたしましたことをご報告いたします。

### ■北大生協留学生委員会の目的

留学生が何に困っているのか、何を必要としているのかを一番よく分かっているのは先輩留学生です。

生協は、留学生たち自身の意見や発想を活かし、お互いに「助け合う場を設ける」ことを通して「相互の繋がりを創る」ということを留学生委員会の目的としています。

### ■今後の活動予定

- ① ウェルカムパーティー
- ② 中古自転車譲渡会
- ③ 生活提案の情報提供
- ④ 組合員加入の呼びかけ

## 教職員委員会

■教職員総代会議…学内7ヶ所まで8月を除く毎月1回、昼休みを利用して開催しています。生協の営業報告の後、教職員の皆様に利用者の立場から色々なご意見をうかがっています。

6月は18、20日に、7月は16、19日に開催しました。

### ■教職員委員会…毎月1回、18時～19時半に開催しています。

総代会議で上がった組合員の声についての検討、きぼうの虹の編集・発行について討議しています。

6月は20日に、7月は25日に開催しました。

■「きぼうの虹」…この冊子です。教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。

今号はフォトコンテストの入選作品発表号です。このため、半分だけカラー印刷になっています。特選は各委員会賞の選考寸評も掲載していますのでお楽しみください。

### 【編集後記】

きぼうの虹383号をお届けします。

フォトコンテストの募集期間は6月1ヶ月でした。期間前半は応募が伸び悩み冷や汗を掻きました。後半に盛り返し、結果的には昨年並みの応募件数でした。応募写真は素晴らしいものが多く、賞選考に苦労しました。例年どおり、秋には会館店で応募作品展を計画していますので是非お越しください。

**新入留学生に贈る 日用雑貨品提供のお願い**

新入留学生の生活を少しでも支えるように、ウェルカムパーティーで「日用雑貨品」をお渡しする場を設けます。皿やカップ、フライパン、鍋などのキッチン用品で、ご自宅で眠っているほとんど使っていない物品がございましたらご提供をお願い致します。

★受付期間：2019年7月29日(月)～9月27日(金)

★受付店舗：生協理事会室、生協会館1F・中央店、北部店、工学部店の各カウンターまで、お待ちしております！

× お受けできないもの：××××  
家電、ガス器具、家具、刃物類、衣料品  
※しみや黄ばみなどの変色や油汚れのあるもの、破損品はお持込にならないようお願い致します。

**北大生協 留学生委員会**  
お問合せは… 011-746-6218  
北大生協 理事会室 (学内線3285)

北海道大学埋蔵文化財調査センターによる長年の調査活動の結果、北海道大学札幌キャンパスの地下に残されている人類活動の証拠は、現状では約5,000年前の縄文中期まで遡ることが明らかにされています。約6,000年前頃は、温暖化により海水準が上昇し、内陸の奥深くまで海域が拡大する「縄文海進」と呼ばれる時期で、現在の石狩市域や札幌市域北部の一部は海域になっていたと考えられています。そうした時期の直後には人類の活動がこの地にも及んでいたことになりま



写真1: 竪穴住居址

す。ただし残念ながら、キャンパス内で縄文中期の活動地点は現在までのところ一地点（ポプラ並木の東側に位置する畜産製造実習室新営工事地点）のみです。ただし残念ながら、キャンパス内で縄文中期の活動地点は現在までのところ一地点（ポプラ並木の東側に位置する畜産製造実習室新営工事地点）のみです。

縄文晩期から続縄文前半期の集落。キャンパス内で人類が拠点的な活動の証拠を残すようになるのは、どうやら約2,500年前の縄文晩期の終わり頃からのようです。総合博物館のむかいに位置する人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）の発掘調査では、縄文晩期後葉から続縄文前半期にかけての集落が発見されました。調査区内の東側からは、蛇行して流れていた河道が確認され、それに沿うようにして複数の竪穴住居址が残されていました（写真1）。注目されるのは、そうした竪穴住居址が、上下に堆積している複数の地層から発見されていることです。300年か

ら400年ほどの間、拠点的な集落としてこの地点は繰り返し利用されていたことを意味しています。竪穴住居址の周囲には、複数の屋外炉址と呼ばれる遺構が確認されました。大きな礫が周囲を囲っていたものもみられました（写真2）。こうした遺構には、焼けて細かく破砕した、サケ科のものを主体とする魚骨が多数伴っていたことから、河川での漁撈によって得られた収獲物の保存処理がおこなわれていた場であることが想定されます。河川沿いの低地に集落が残されるようになった背景には、こ

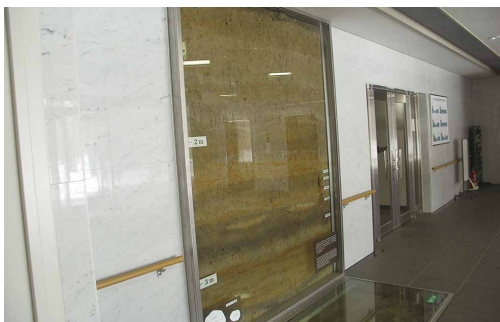


写真3: 地層断面の剥ぎ取り展示

## 遡る人類活動の証拠

# 北大キャンパスの遺跡へ行こう

第2回  
縄文から続縄文前半期にかけての人類活動

北海道大学埋蔵文化財調査センター 高倉 純



人文・社会科学総合教育研究棟地点から出土した土器

で確認されているのみで、この時期の生活の様子が充分に明らかにはされていないといえません。気候変動に伴って新たに生み出された環境に人類がどのように進出・適応してきたのか、という興味深い問題の解明には、さらに今後の調査研究の進展を待ちたいと思います。

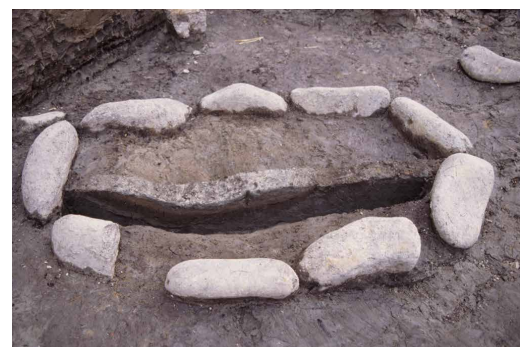


写真2: 屋外炉址

うした河川での漁撈活動の活性化が大きく関係していたのでしよう。

人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）の玄関ロビーでは、発掘調査の際に露出した地層の断面を展示しています（写真3）。これは、発掘調査の過程で確認された地層の断面を、特殊な工程を経て剥ぎ取ったもので、地表下1mから3mほどまでの深さに堆積していた地層の様子を間近で観察することができま